

## 「江戸ことば」は潤滑油

落語家、噺家という仕事は皆様から見てどのように映っているのでしょうか。噺家は主に都内にある寄席をベースにして活動しております。噺家になるには師匠と呼ばれる噺家入門をしなければなりません。入門を許されると前座修業が始まります。落語家には前座・二つ目・真打の三階級に分かれています。前座修業は厳しいもので、師匠宅に朝早くに行き掃除などの家事をして、そのあとは寄席に行って師匠方のお世話や寄席の楽屋働きをします。3～5年ほどの修業期間が終わると晴れて二つ目に昇進をします。これが大変に嬉しいもので、厳しい修行を耐え抜いたものだけが得られる幸せです。それから10年ほど経つと今度は真打に昇進、敬称が師匠に代わります。寄席で「主任（とり）」を務めることができ、弟子を取ることも許されます。

皆様一度は聞いたことがあると思うので、前座と主任という言葉は何の説明がなくてもお分かりになることでしょう。コンサートの前座で歌うとか、紅白歌合戦でトリをとるなど耳にすることだと思います。でもどうして我々の業界の言葉が世間一般で使われることになったのでしょうか。あくまでも推測ですが、テレビ・ラジオが始まったときに噺家が関わっていたからではないでしょうか。「マジ」という言葉があります。真面目かよ、を省略した言葉ですが、もともとは寄席の楽屋で噺家が使っていたといわれています。「せこい」も同じように楽屋言葉です。噺家がタレントみたいにテレビに出て「マジかよ」「せこいね～」と言っていた昔を想像できます。

言葉というものは時代とともにどんどん変化するものです。最近はトリのさらに上の大トリなんという言葉もできました。このトリの語源がとても面白いもので、寄席の出演料であるワリからきています。昔はその日の寄席の興行が終わると、トリの噺家が給金を分配しました。新聞紙を広げてその上で出演料を分けていきます。まずは半分にして、それが寄席の席亭の小屋代となります。新聞紙に出演者の名前を書き、その上にお金を分けていきます。分け終わると新聞紙をびりっと破りそのままお金を紙に包み、翌日出演者の手にわたります。長年寄席に出ていれば、客の入りを見ておおよそのワリは分かるものです。トリの噺家が自分の給金を多めに持って行ってしまい、受け取ったワリが少ないと「あのやろう多く取りやがったな」ということとなります。主任という言葉は、この「多くとりやがったな」のトリからきたとされています。紅白のトリなんというところから聞かれますが、残念ながら元はせこい泥棒野郎という意味です。落語や寄席の世界では、こんな古い習慣や江戸っ子の言葉が数多く残っています。



最近、NHK ドラマの江戸ことば指導をさせていただいており、「青天を衝け」「らんまん」「大奥」などに携わってきました。来年の大河ドラマ「べらぼう」の指導ももう始まっております。この江戸ことばというのも微妙な言い方で、厳密には江戸っ子の言葉と言ったほうが正確かもしれません。また、江戸っ子みんながいわゆるべらんめえ口調だったわけでもないようです。先輩の三遊亭圓生師匠がエッセーの中でふれています、大体の人は上品におしゃべりしていたようです。気の荒い連中、職人や火消しなどの人たちがべらんめえ口調を使っていました。人口が百万を超えていた大都市江戸。庶民は狭い長屋などで肩を寄せ合い暮らしていました。

江戸っ子は五月（さつき）の鯉（こい）の吹き流し 口先ばかりで腸（はらわた）はなし

人と人の距離が近い分トラブルも多かったようですが、パーンと文句を言って翌日には忘れてしまおうというそんなところから、突き当たりまでいかないようにクスッと笑える粋な言葉が生まれたのかもしれない。

温故知新。人間関係の潤滑油になっていた江戸ことば、いまの日本人に必要な感性のひとつなのかもしれません。

2024年1月

事業推進委員、研究・研修委員

柳亭 左龍（落語家）



#### ●柳亭左龍／プロフィール

1993年 柳家さん喬に入門

2006年 真打昇進 六代目「柳亭左龍」を襲名

2009年 第14回林家彦六賞受賞

2010年 花形演芸大賞銀賞受賞

2011年 花形演芸大賞金賞受賞

2012年 花形演芸大賞金賞受賞

書籍：「使ってみたいイキでイナセな江戸ことば」(小学館)

趣味：釣り・ドライブ・ラグビー観戦

活動：2013年より東京女子大学非常勤講師（日本の古典芸能）

NHKドラマ「青天を衝け」「らんまん」「大奥」等の江戸言葉の指導

米津玄師のMV「死神」の所作指導、他多数

「困ったときはSOS」。ご相談を心よりお待ちしております。